

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

#### 学校経営中期取組目標

学校教育目標実現のために、〔希望〕〔幸福〕〔他愛〕あふれる、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを進めます。

- 一人ひとりの子どもが、日々の授業や様々な行事等において、主体的に課題を解決する学びを大切にし、授業力の向上に取り組みます。
- 一人ひとりの子どもに寄り添い、互いを認め合う心、豊かな心、そして、たくましく健やかな体を育むように努めます。
- 一人ひとりの子どもの学びと生活を支える教育環境の整備、改善を進めます。
- 一人ひとりの子どもが、地域の行事や交流活動を通して、まちに貢献する心を育みます。また、近隣の幼保小中高大学連携を進め、教育活動の充実を図ります。

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		基礎・基本の定着とともに、主体的に課題を解決する学びを大切にし、身に付ける力を明確にした分かりやすく楽しい授業を追求します。	「資質・能力を育成する授業デザイン」をテーマに掲げ、子どもの実態をとらえ、身に付けるべき資質・能力を育成する授業の在り方を研究し、授業力向上、学力向上を目指します。また、朝のスキルタイム、読書タイムの拡充、各学年の発達段階に応じた家庭学習の継続により、学習の習慣化と基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。
担当	教育課程部		

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

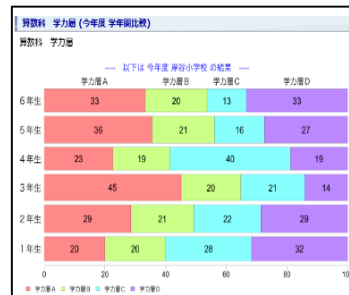
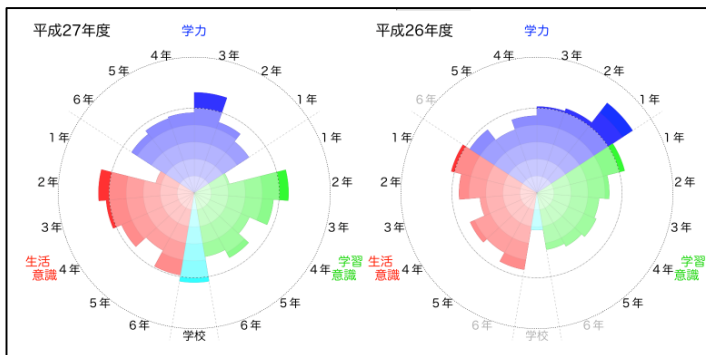
### (1) 学力の概要と要因の分析

学力については、3年（現4年）は市平均を上回るが、他学年については市平均より下回る。学習意識は、2年（現3年）3年（現4年）、生活意識は2年（現3年）が市平均を上回り、他学年は市平均を下回る。

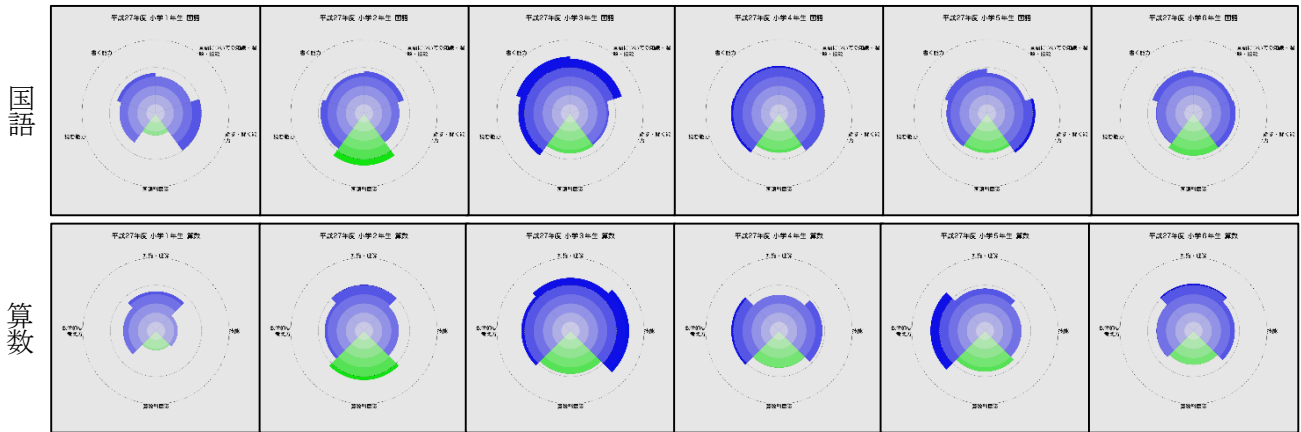
また学年が上がるにつれ市平均との差が広がる傾向にある。

総じて学力や学習意識、生活意識が市平均を下回ることから、各学年とも学習に関する課題は多い。

学力層については各学年とも低学力層の割合が大きい。特に低学年での低学力層の割合は大きく、低学年から基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業が求められている。



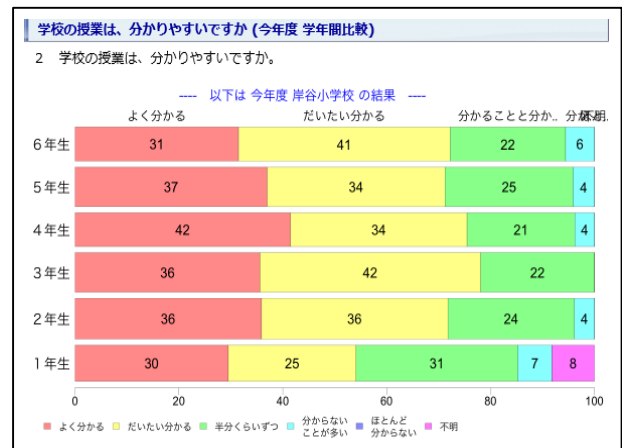
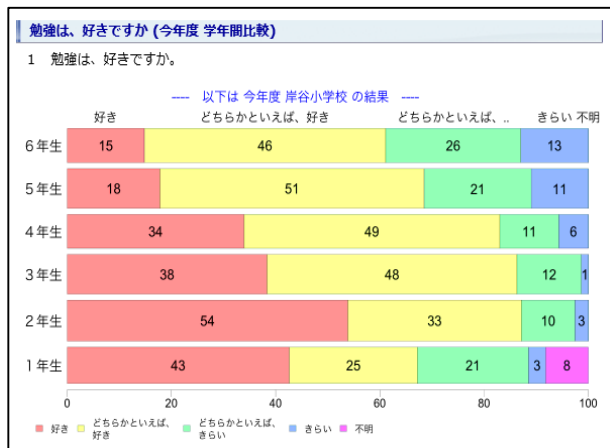
1年(現2年) 2年(現3年) 3年(現4年) 4年(現5年) 5年(現6年) 6年(現中1)



## (2) 教科学習の状況

- 国語科：市平均を下回るものの、比較的書く能力は市平均に近い。
- 算数科：技能が市平均を上回るのは3年(現4年)のみ。技能の確実な習得が必要。

## (3) 経年変化の状況と要因の分析

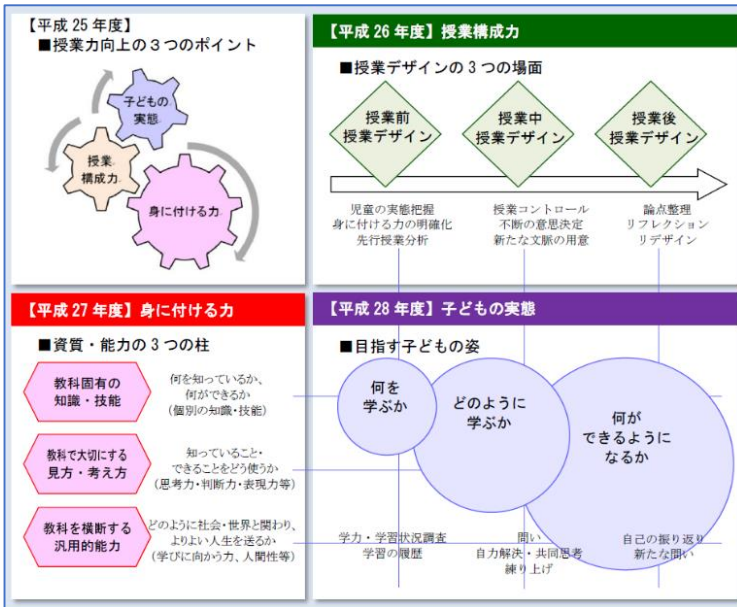


生活意識調査結果より、経年変化の状況としては、全校の生活意識、学習意識とも肯定的に回答する児童の割合は増加傾向にあり、学習に関する意識は向上していると考えられる。課題としては、勉強の好き嫌いに関しては学年が上がるにつれて肯定的回答が減少しているということ、授業の分かりやすさに関しては学年に関わらず分かることと分からないことが半分くらいずつと回答する児童の割合が2割から3割であるということが挙げられる。

こうした状況から学習の関心や意欲を高める授業、学習内容が分かる授業が求められている。基礎的・基本的な知識・理解や技能の定着を図るとともに、問題発見、問題解決していく学びのプロセスを設定し、自ら学び進めていく態度など、育成すべき資質・能力を身に付ける授業をデザインしていく必要がある。

### 3 平成28年度 学年・教科等としての具体的取組

## 授業デザイン



これまでの本校の研究により、育成すべき資質・能力を明確にし、子どもの実態把握、評価に焦点をあて、期待する子どもの姿をもち、目の前の子どもの実態をとらえ、授業デザインしていく。そうした指導を通し、子どもは何をどのように学び、何ができるようになるか、どのように子どもが変容するのかをとらえる。算数を中心教科とし『資質・能力を育成する授業デザイン』を研究テーマに掲げ、研究を深めていく。



### 資質・能力を育成する授業デザイン

育成すべき資質・能力を3つの柱でとらえ、それら資質・能力を身に付けられる授業の在り方を授業前、授業中、授業後の3つの場面を通して考え、授業をデザインしていく。子どもの学びの姿をとらえ、子どもの姿から授業改善を図ることでPDCAサイクルを機能させ、授業力向上、学力向上を目指す。

### 主体的な学びを支える知識・技能の定着

意見を進んで発言し聞き合うなど、話し合いを進められるよう、各学年の段階に応じた話型を掲示したり、問題解決のプロセスや解決方法、学習内容、ノートまとめ方など、学習履歴を掲示したりする。学習場面で繰り返し確認していくことで主体的な学びを支える知識・技能の定着を図る。



### 見方・考え方を深める学びのプロセス

何が問題であるか、個々の疑問から学習課題としての問いを見出し、見通しをもち、解決していく。解決過程を説明するなど互いの表現、思考を深めていく。また、学習の振り返りをし、何ができるようになったのかを自覚化できるようにする。こうした問題発見、問題解決のプロセスを学びの文脈として授業を展開していくことにより、主体的に学びを進める力を身に付けられるようにする。

### スキルタイム

火曜日～木曜日までの朝の時間にはまっ子ドリルなども活用し計算や漢字などのスキル学習を行う。繰り返すことで基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。



### 読書タイム

火曜日～木曜日までの朝の時間、スキルタイム後に読書タイムを設定。各学年で年間読書目標冊数を設定し、読書の習慣化を図る。

読書タイム記録		学年	冊数	達成率
1	読書タイム	1年		
2	読書タイム	2年		
3	読書タイム	3年		
4	読書タイム	4年		
5	読書タイム	5年		

### 岸谷SR

少人数グループでの個別学習指導。基礎的・基本的な学習内容の定着を目指し、それぞれの学習の実態に応じた課題に取り組む。



### 家庭学習

各学年、音読、国語や算数のプリントなど、毎日家庭学習を行い、家庭と連携し学習の習慣化を図る。

